



故從三位勲三等磯部正春勲
 章加授ノ件
 右謹テ裁可ヲ仰ク
 昭和三年十月十二日
 内閣總理大臣男爵田中義一



内

閣

めくれず

賞勳局 一八五號 内閣 尚書 昭和三十二年十月十二日 昭和三十二年十月十二日 昭和三十二年十月十二日

昭和三十二年十月十二日 内閣 尚書 賞勳局長ノ

内閣總理大臣

賞勳局總裁



故從三位勳三等磯部正春儀ハ明治二十三年七月東京帝國大學ヲ卒業スルヤ直ニ試補トナリ農商務省ニ入ル後法制局試補鐵道廳事務官農商務省特許局審判官農商務省書記官特許局長ヲ歴テ農商務省鑛山局長ニ任セラレ大正六年退官ニ至ルマテ實ニ

賞勳局

二十七年ノ永キニ及フ又退官後錦雞間祇候被仰付實業界ニ身ヲ委ネ不東洋製壘株式會社長大正鑛山株式會社取締役大日本鑛業株式會社相談役産業組合中央金庫監事トシテ多年我邦鑛業ノ發達ニ盡瘁シテ功績顯著ノ者ニ候處本月十二日死去セル趣ニ付此際特ニ同日附テ旭日中綬章ヲ加授セラレ度此段允裁ヲ仰ク

内閣 商工 三十一号

故從三位勲三等 磯部正春

右者明治二十三年七月東京帝國大學ヲ卒業スルヤ
直ニ試補トナリ農商務省ニ入ル後法制局試補鐵
道廳事務官、農商務省特許局審判官、農商務書
記官、特許局長等ヲ歴任シ明治三十八年農商務省
鑛山局長ニ任セラシ大正六年退官スルニ至ル迄實ニ
二十七年ノ永キ又退官後錦鷄間祇候被仰付實
業界ニ身ヲ委ネ東洋製鹽株式會社社長、大正
鑛山株式會社取締役、大日本鑛業株式會社相
談役、産業組合中央金庫監事トシテ多年我邦
鑛業ノ發達ニ盡瘁シタル成績顯著ナルモノニ候
處本月十二日死去ノ趣ニ付テハ此
際特ニ勲等進敘、御詮議相成度此段稟請
候也

商工省

昭和三年十月十二日

商工大臣中橋徳五郎

内閣總理大臣男爵田中義一殿



めくれず

明治廿五年七月廿二日	陞叙高等官三等	賞勲局	内閣
“	土月七日 市用有之米國へ被差遣	内閣	内閣
“	十二月十日 叙従五位	賞勲局	内閣
明治廿六年六月廿六日	叙勲六等授瑞寶章	賞勲局	内閣
“	土月十四日 授單光旭日章	賞勲局	内閣
明治廿八年三月十六日	任特許局長	賞勲局	内閣
“	叙高等官二等	賞勲局	内閣
“	五月一日 叙正五位	賞勲局	内閣
“	土月土日 任農商務省鑛山局長	賞勲局	内閣
“	土月廿二日 叙勲五等授瑞寶章	賞勲局	内閣
明治四十年六月廿日	叙勲四等授瑞寶章	賞勲局	内閣
明治四十二年五月廿一日	叙従四位	賞勲局	内閣
明治四十四年六月廿八日	叙勲三等授瑞寶章	賞勲局	内閣
明治四十五年二月十日	陞叙高等官一等	賞勲局	内閣
大正四年四月十四日	年俸五百圓加賜	賞勲局	内閣
大正四年五月廿一日	叙正四位	賞勲局	内閣
大正“年土月七日	大正三四年事件功依り金九百圓ヲ賜	賞勲局	内閣
大正五年五月廿五日	大正四年桑港萬國博覽會ニ付盡力不勤仍テ銀杯一組ヲ贈與ス	賞勲局	内閣
大正六年二月三日	依願免本官	賞勲局	内閣
大正“年二月廿日	叙従三位	賞勲局	内閣
大正“年六月廿一日	錦鶏間祇候被仰付	賞勲局	内閣
大正十五年五月廿日	産業組合中央金庫監事ヲ命ズ	賞勲局	内閣
昭和三年	一死去	賞勲局	内閣

(小紙納)

前叙
五年八月廿
定限七年
不足
一年三月半

任期満了
五年十一月十九

農務第三五三號

昭和三年九月十二日

農林大臣秘書官



内閣官房總務課長役

磯部正春

右記各委員中央事務監事及同中央事務顧問七位中、
於此等事務調書別紙及送付原條可於以下反計表及表紙

農林省

(小張納)

磯部正春

大正十二年産業組合中央金庫ノ設立セラルルヤ同年十二月
二十日同金庫監事ヲ任命セラレ創業當時ノ難局ニ處レ
克ク其ノ經營ヲシテ過ナカラシメ同年十二月任期満了スルヤ
再選セラレ今日ニ至ル此ノ間一言専心中央金庫ノ機能發揮
ノ書齋瘁ニ功績著シキモノアリ又大正十三年一月二十九日産業組合
中央會顧問ニ就任シ之ヲ産業組合ノ普及及發達ニ其ノ聯
絡等ニ書齋瘁ニ功績顯著ナルモノアリ

農林省

(小張納)

六

商褒第三八番内

昭和三年十月十二日

商工大臣秘書官



賞勲局書記官 比下

九月十三日付商褒第三八号ヲ以テ從三位勲三等
勲正春勲等進叙ノ義内閣ノ稟請ノ處本月十二日
午前七時二十分迄之致候条此致及通知候也

商工省

(小紙納)

